

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

発語の難しい生徒が思いを伝えることができるための ICT 活用 「先生とメールがしたい」という願いをかなえるために

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部 1 年
	障がい名等	肢体不自由、知的障がい
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	自立活動「先生とメールをしよう」
	単元(題材)名	
教材・教具 支援機器について	単元(題材)の概要	・「先生とメールがしたい。」という本人の願いから、クラスルームとグーグルスライドを使用して、家庭学習で日記を入力し、それに対して教師が返事を書くというやりとりを夏休みから継続している。
	教材・教具 支援機器	日記のテンプレート (Google スライド) 
ねらい・工夫点	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「先生とメールがしたい。」という本人の願いをかなえる。 ○単語を並べて自分の思いを伝えることはできるが、より明確に伝えられるように文章で伝えることができるようにする。 <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師がいろいろな言葉を使って返信することで、本人の語彙を広げ、文章での伝え方を学ばせるようにする。
	材料・作成方法等	タブレット端末、Google Classroom、Google スライド P C、視線入力装置
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・視線入力への意欲が高まり、下校後と登校前に日記の記入をするようになった。そのことで、少しずつ文章で伝えることができるようになってきた。 ・文字入力をするスピードが早くなり、教科の授業でも視線入力装置を使用して、意見を述べたり質問に答えたりできるようになった。以前は、授業に関係のない単語を入力し友達を笑わせようとするが多かったが、それが全くなかった。 ・自分の気持ちが教師に、より伝わるようになり学習への意欲が高まった。母親に「学校に早く行きたい。」と伝え、登校時間前に、昇降口で教師を待っているようになった。また、自分の思いを押し通すことがなくなり、気持ちに折り合いをつけることができるようになった。 ・「顔写真シールを作ってほしい。」「視線入力のできる宿題がほしい。」「リモートがやりたい。」などと、さらにいろいろなことを考え、教師に伝えている。

(令和 4 年度)